

『中原佑介美術批評選集』第2回配本記念トークセッション 榎木野衣 × 北川フラム

「3・11後の今、 中原佑介は何を語っただろうか」

戦後美術批評の地平を開き、2011年3月、東日本大震災の直前に亡くなられた美術評論家・中原佑介氏。その膨大な仕事をまとめた『中原佑介美術批評選集』（全12巻）の刊行が昨夏スタートしました。

中原氏のデビュー作をおさめた第1巻『創造のための批評——戦後美術批評の地平』と、日本の現代美術界に大きな影響を与えた「人間と物質」展をめぐる第5巻『「人間と物質」展の射程——日本初の本格的な国際展』の書評で、美術評論家・榎木野衣氏は、次のように述べています。

「かつて理論物理を学びつつ詩を書いた氏は、学問への志も詩人への憧憬も断ったあと、批評に両者の対立ではなく融合を求めたのではないか。だからこそ、機械文明の危機を思わせる震災下に氏が美術を通じて何を語ったか。同じ批評家として、本書を読み考えずにはられない」（読売新聞）。

私たちは、美術を出発点として、私たちはどこにいるのか、現代をどうとらえるか、という問いに向きあいたいと思います。その時、中原佑介氏の仕事は大きな道標になるはず。榎木氏と、その問いに越後妻有や瀬戸内などの地域と関わるなかで答えようと格闘する北川フラム氏とのトークセッションを開催します。

日時 2012年4月24日[火] 19:00-20:30
会場 ヒルサイドプラザ
定員 150名(予約先着順)
入場料 1500円
※『中原佑介美術批評選集』を購入された方は、割引があります。
1冊購入 1000円 2冊購入 500円 3冊以上購入 無料
主催 クラブヒルサイド、BankART1929
共催 現代企画室



榎木野衣 | さわらぎ・のい
美術評論家、多摩美術大学美術学部教授。1962年埼玉県生まれ。評論のほかに、新たな視点で話題を呼んだ展覧会「日本ゼロ年」「アノーマリー」などを企画。主な著書に『日本・現代・美術』『戦争と万博』『反アート入門』など。近年は岡本太郎の再評価や戦争記録画の再考にも力を注ぐ。



北川フラム | きたがわ・ふらむ
アートディレクター。1946年新潟県生まれ。「アントニオ・ガウディ展」、「アバルトヘイト否!国際美術展」、「ファーレ立川アートプロジェクト」等をプロデュース。地域づくりの実践として「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」、「水都大阪」、「瀬戸内国際芸術祭2010」など。

ご予約・問合せ ヒルサイドインフォメーション
Email: info@hillsideterrace.com TEL:03-5489-3705

アクセス ヒルサイドプラザ
東急東横線[代官山駅]下車 徒歩3分
東急東横線/地下鉄日比谷線[中目黒駅]下車 徒歩7分
JR山手線/JR埼京線/地下鉄日比谷線[恵比寿駅]下車 徒歩10分



『中原佑介美術批評選集』第2回配本

第3巻 反芸術の時代／ナンセンスの美学 ——読売アンデパンダン展とその後

現代において、古典彫刻の概念は崩壊し、「彫刻」という概念自体が成り立たなくなっている。世界における「彫刻」の歴史を「物質」という観点から捉え直し、その変貌と矛盾を衝いた1965年(増補版82年)の名著『現代彫刻』の復刊に加え、『現代彫刻』以降、60年代後半～80年代に新たに展開された彫刻についての文章を集めた。

第6巻 現代彫刻論——物質文明の変貌

1960年代、大きな転換期を迎えた日本の前衛美術。次々と新しい動向が生まれ、美術批評も活性化し、多くの論争が勃発した。新聞連載、読売アンデパンダン展をめぐる言説、影論争、ポップ・アート論争、中原の思想の根幹を成す「ナンセンスの美学」についての文章を集め、激動の時代に生きた中原佑介の批評の姿を浮かび上がらせる。
予価:2500円 発行:現代企画室+BankART出版

第1回配本
第1巻 創造のための批評——戦後美術批評の地平
第5巻 「人間と物質」展の射程——日本初の本格的な国際展
定価:2400円+税 発行:現代企画室+BankART出版